

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表： 令和6年1月18日

事業所名 社会福祉法人大空会児童発達支援なかよし園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・指導訓練室に固執があり、園児の実態に合わせて活用している。 ・屋上を活用し、園児の活動量の確保を行っているが、年齢が上がってくると屋上では物足りなさが出てくるため、地域資源（公園や散歩）の活用もしている。	・環境設定の工夫、改善を心掛け、園児が過ごしやすい空間を考えていきます。
	2	職員の配置数は適切である	○		・園児の低年齢化や一対一対応が必要な園児が増えているため、定数以上配置している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・園児の実態に合わせて、物の配置や導線を考えています。また、視覚支援を活用し、園児が自分で分かって動ける環境を心がけている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・毎朝と降園後に、掃除を行っている。 ・使った玩具の消毒も毎日行っている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		・活動や行事において、次に繋がるよう振り返りや反省を行っている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・9月の面談時に、保護者へ事業所評価をお願いしている。結果は、職員間で共有し、よりよい支援に繋がるよう話し合いを行っている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		・保護者への配布に加え、大空会HPに掲載している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		・今後検討をしていきたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・全職員が研修を受ける事は難しいが、研修を受けた職員が職員会議で研修報告を行っている。	・全職員が質の向上に努められるよう、事業所内研修を検討していく。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・職員で順番に行っている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・送迎業務があるため、全員は難しいが出来る職員で確認、振り返りを行っている。 ・業務連絡用LINEを活用し、情報共有や確認を行っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・スムーズに移行ができるように、特性シートの作成を行い、情報提供したり、会議の場で活用したりしている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・退園児、卒園児については、必ず特性シートを作成し、保護者の承諾を得て情報提供、共有を行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		・同じ大空会の保育所との交流を行っている。	・来年度より、定期的に交流会の機会を計画していく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	29	自立支援協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		・担当者が参加しています。部会の内容については、口頭や資料で全職員へ報告を行っている。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	○		・送迎時に保護者の方と顔を合わせ、いつでも話せるようにしている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	○		・保護者向けの研修や講演情報を、配布して伝えている。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・連絡ノート、懇談会などを利用し、保護者の声を聞いている。 ・LINE連絡が定着し、日常生活の困りごとをタイムリーに相談することができるようになり、保護者との連絡や連携が密になっている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・父母の会は行っていないが、毎年保護者会を開催している。今年度は、回数を増やすことができた。今後も継続して保護者会を開催していく。	
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・電話連絡だけでなく、LINE連絡が定着し、いつでもどこでも相談ができる体制になっている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・日々の様子については、昨年度から取り組んでいるInstagramでの情報発信を続けている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		・個人情報に掲載されている書類は、鍵付き書庫にて管理を行っている。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		・紙芝居、人形劇をボランティアの方々をお招きし、お願いをしている。	
	非常時等	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・室内、室外での避難訓練を実施している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
の 対 応	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の こどもの状況を確認している	<input type="radio"/>			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師 の指示書に基づく対応がされている	<input type="radio"/>			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共 有している	<input type="radio"/>			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保 する等、適切な対応をしている	<input type="radio"/>			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行う かについて、組織的に決定し、子どもや保護 者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児 童発達支援計画に記載している	<input type="radio"/>			

○この「児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。